

地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議  
「熟議 2012 in 熊本大学」報告書

1. 日 時

平成24年10月19日（金）9：00～12：00

2. 場 所

熊本大学（熊本市中央区黒髪2丁目39番1号）

3. テーマ

(1) 全体テーマ：「地域課題の解決に向けた生涯学習系センターの役割」

(2) 個別テーマ：

1) 「地域課題を解決する人材育成とセンターの役割」

2) 「これからの教職協働によるセンターの運営について」

3) 「実年世代を対象としたプログラムの在り方について」

※参加者はこの3つのテーマから1つを選択し、討議を行う。

4. 主 催 熊本大学、文部科学省

5. 共 催 全国国立大学生涯学習系センター研究協議会

6. 後 援 熊本県教育委員会、熊本市、高等教育コンソーシアム熊本

7. 参加者数

85名（大学教職員71名、行政関係者10名、その他一般参加者4名）

8. 次 第

9：00～ 9：05 開会挨拶

文部科学省生涯学習推進局生涯学習推進課 課長補佐 高井 絢

9：05～ 9：10 熟議趣旨説明

文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課 係長 船木 茂人

9：10～11：50 熟議・グループ発表

11：50～12：00 閉会挨拶

熊本大学政策創造研究教育センター長 原田 信志

## 9. 熟議概要

今回は、第34回全国生涯学習系センター研究協議会（以下「協議会」）において、地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議「熟議2012 in 熊本大学」（以下「熟議」）を行った。

まず文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課の高井 絢課長補佐の開会挨拶があり、次いで、同課の船木 茂人係長より熟議の趣旨説明があった。その後の熟議では、前日の協議会分科会での議論に基づき、熊本県及び熊本市の生涯学習関係行政職員並びに一般市民を参加者として新たに加えてテーマごとにグループ討議を行った。

グループ討議では、大学教職員、行政職員及び一般市民等それぞれの立場から活発な議論が行われた。また、その後のグループ発表では、参加者全員で熟議による議論の成果を確認した。

最後に本学政策創造研究教育センターの原田 信志センター長から閉会挨拶があり、熟議は盛会のうちに終了した。

なお、各テーマで行われたおもな議論は以下のとおり。

### 1) 「地域課題を解決する人材育成とセンターの役割」

大学生や市民を含めた人材育成及び育成した人材のフォローアップをどうするかということ等がおもな課題として議論され、この解決策として、社会参加のエッセンスをもった授業・講座の企画・プログラムの開発を行うこと等が提案された。

### 2) 「これからの教職協働によるセンターの運営について」

教職協働のためには、センターのミッションを共有する、更に教員・事務職員のコミュニケーションを確保する必要性等が課題として議論されるとともに、事業の企画を提案できる事務職員の専門性が必要との意見もあった。この解決策として、大学によるSD研修を実施し、センターのミッションを共有する機会をもつ、事務職員のパーソナリティを考慮しつつ、研修・人事・評価システムを確立すること等が提案された。

### 3) 「実年代を対象としたプログラムの在り方について」

市民のニーズと学内資源のギャップ及び60歳台以上のリピーターが多いということ等がおもな課題が議論され、この解決策として、大学等の地域の教育機関及び自治体等と連携し、事業を行うことやビジネスマンが仕事に活用できる実学の講座の企画並びに開催曜日及び時間について、講座やイベントの際に受講者の生の声を聴いて直にニーズを把握すること等が提案された。

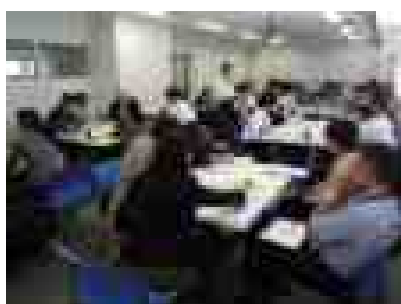
## 10. 熟議風景



会場風景



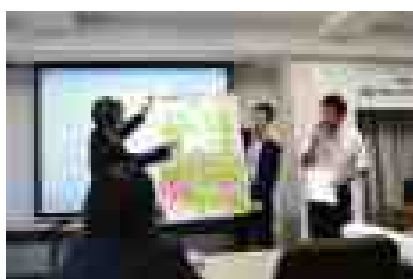
開会挨拶



熟議全体の様子



グループによる熟議の様子



グループ発表



閉会挨拶

## 11. 今後の展望

現在、本学政策創造研究教育センターでは、「地域に根付いた医療を地域と考える」ことを目的として、小国公立病院の医師や住民及び熊本大学教員によって「小国郷の医療をみんなで考える会」を行っている。ここでは、阿蘇地域の小国郷（おぐにごう）の医師数が全国平均の約半分という医療格差が大きい現状を打破するべく、地域住民、病院や地元医師会などの医療従事者、行政関係者及び本学医学部附属病院地域医療システム学寄附講座の学生を交えて、地域医療について様々な議論を交わしている。

今後は、この「熟議」の手法を参考にしながら、ますます積極的な対話が行われるようにしたい。